

平成30年度第3回発達障がい支援者研修会

日時:2019年2月9日(土)

場所:エスポワール 愛媛文教会館

学習障がい

～子どもと家族の困りごとと学習の進め方～

愛媛大学
長尾秀夫

目次

- I. 学習障がいとは？
- II. 子どもと親・家族の困りごと
 - 1. 子ども・親・家族・周囲の人の困りごと
 - 2. 子ども療育センターを受診した子どもの困りごと
- III. 学習障がいの診断
- IV. 学習の進め方
 - 1. 子ども支援の方法は？
 - 2. 親・家族・教師にできる支援は？
 - 3. 愛媛県での支援案？
- V. まとめ

I . 学習障害 (H11.7.2報告)

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達
の遅れはないが、**聞く、話す、読む、書く、計算する**
又は**推論する**能力のうち特定のものの習得と使用
に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何
らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、
聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環
境的な要因が直接の原因となるものではない。

学習障害の定義

DSM-IV-TR(2002) DSM-5(2014)

文部科学省(1999)

学習障害:

- ・読字障害
- ・書字表出障害
- ・算数障害

限局性学習障害:

- ・読字の障害 →
- ・書字表出の障害 →
- ・算数の障害 →

学習障害:

- ・読む
 - ・書く
 - ・計算する
 - ・推論する
-
- ・聞く
 - ・話す

コミュニケーション障害:

- ・受容-表出混合性言語障害
- ・表出性言語障害

コミュニケーション障害群:

- ・言語障害
- その他、
- ・語音障害(音韻・構音を含む)
- ・小児期発症流暢障害(吃音)
- ・社会的コミュニケーション障害

* 発達性読み書き障害とは、中核障害は読字の障害。

発達性読み書き障害 (DLX) とは？

発達性読み書き障害は、**学習障害の一つ**。

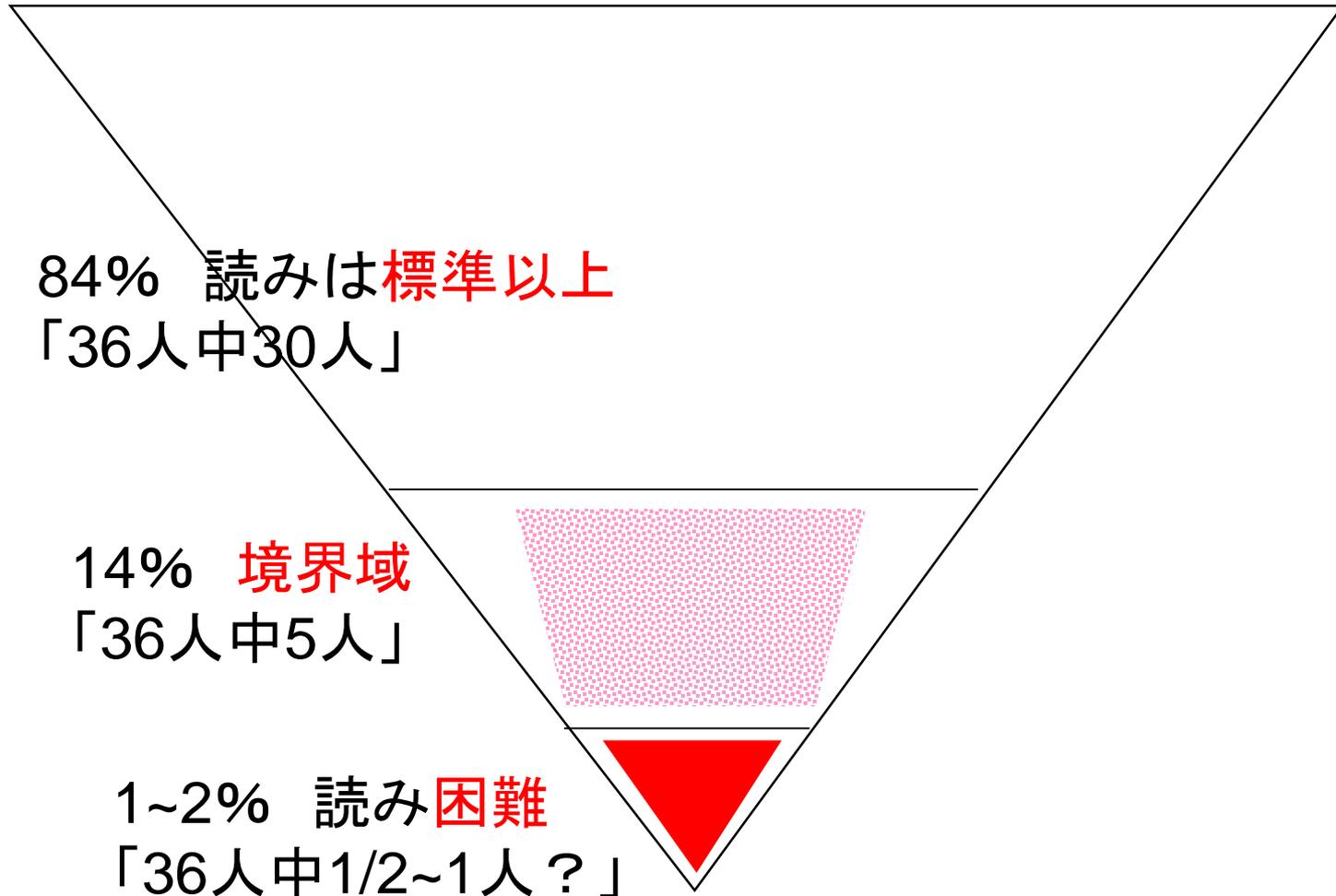
DSM-IV、ICD-10の読字障害と書字障害を含む。

定義は、**読み書き**の学習レベルが年齢や知的発達、教育の程度から期待されるレベルより、十分に低い状態をいう。

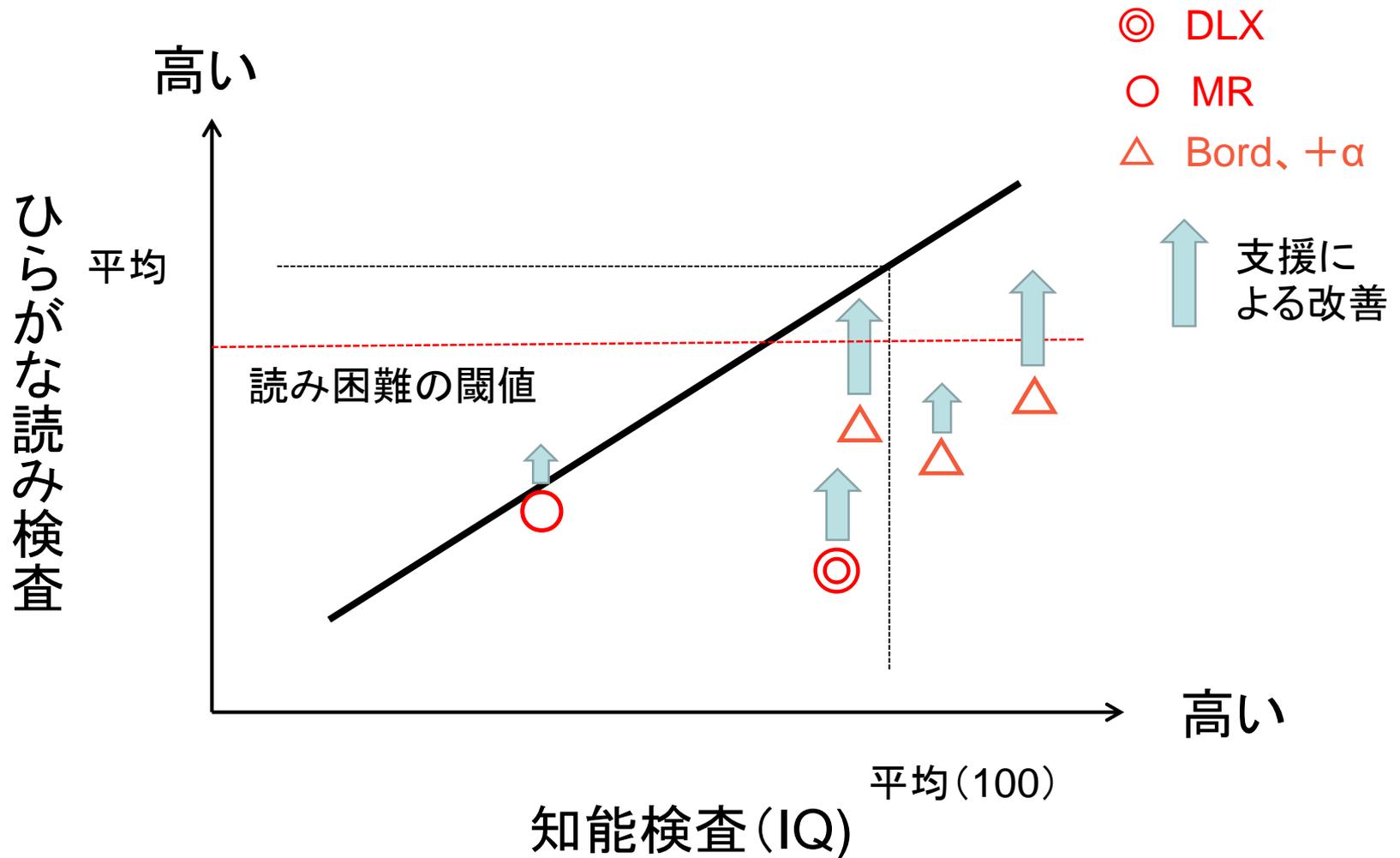
頻度は、アルファベット圏では、学童の5～7%。

日本語圏では、学童の1～2%。(細川ら、2009)。文科省の教員に対する調査(2012)では学習の困難が**4.5%**。

読み能力の分布



発達相当のひらがな読み能力？



Ⅱ 就学前(4, 5歳代)のDLX児の困難

○ 友達の名前を覚えられない、思い出せない。

▪

○

▪

○

○

○

小学1, 2年のDLX児の困難

話す:

○似たような語と間違えて言う。

○

読む:

○一文字ずつのたどり読み(逐字読み)が続き、内容が理解できない。

○

○

○

書く:

・読むだけでなく書くことは更に大変で、

小学3-6年生のDLX児の困難

話す:

○長い複雑な単語の発音を間違ふ。

○

読む:

・単語によって読み方が変わる漢字が読めない。青空・
空気

○

・

○

○

○正確さは改善するが、流暢さの困難が続く。

書く:

・

中学・高校・成人のDLXの困難

話す:

○人名や地名の発音を間違える、単語の一部が抜ける。

○

読む:

○すらすら読めない、読むと極端に疲労する。

○

・

・

○

書く:

○

・機械的な事務作業の効率が悪い。

子ども療育センターを学習障がい関連の 主訴で受診した子ども

1. 2018年の実受診者数 59人
2. 受診者の性別 男:女=47人:12人
3. 初回受診年齢

5歳5か月～17歳7か月・・・平均9歳8か月

4. 主訴(困りごと)

文字が読めない、漢字が覚えられない、学習が困難、書くことが苦手、算数ができない、他

5. 学習以外の症状、合併症

知的発達が境界域、軽度の遅れ。注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム、不器用、不登校、起立性調節障害、夜尿、他

Ⅲ. 発達性読み書き障害の診察手順

0. 問診(困りごと、家族歴など)・診察
1. 読み書きの**臨床症状チェック表**
2. **知能検査**(WISC-Ⅲ/Ⅳ、**K/ABC-Ⅱ**、など)
3. **ひらがな読み検査**・・・速さ と 正確さ
 - ①**短音**連続読み検査
 - ②**単語**速読検査
 - i. **有意味語** ii. **無意味語**
 - ③**単文**音読検査
4. **学習習熟度テスト**(国語・算数)

ひらがな読み読検査(稲垣ら、2010)

①短音連続読み検査 (50字)

は	び よ	げ	い	り ゆ	び	ぜ	じ よ	と	よ
み よ	て	ぴ ゆ	お	ぼ	に よ	え	ら	に や	ず
ぬ	ぎ や	む	び や	じ ゆ	か	き ゆ	ち ゆ	そ	ぎ ゆ
し	ぐ	し や	き よ	つ	ひ ゆ	さ	ぺ	し よ	に
ち や	の	が	ま	ぶ	じ	り や	れ	く	ぴ や

③単文音読検査 (3文)

あお まる あか しかく
青い丸にさわってから赤い四角にさわってください。

②単語速読 検査

i. 有意味語

(30語)

ちやわん

げんかん	どろぼう	としより
えんぴつ	てぶくろ	かねもち
でんとう	いりぐち	かけあし
ちやわん	だいがく	もちぬし
ぜんたい	まちがい	ふるしき
せっけん	くちばし	しゃしん
らいねん	かいしゃ	ばいきん
たいそう	おもちゃ	めじるし
がっこう	あさって	しゅるい
いたずら	むらさき	ふるさと

②単語速読 検査

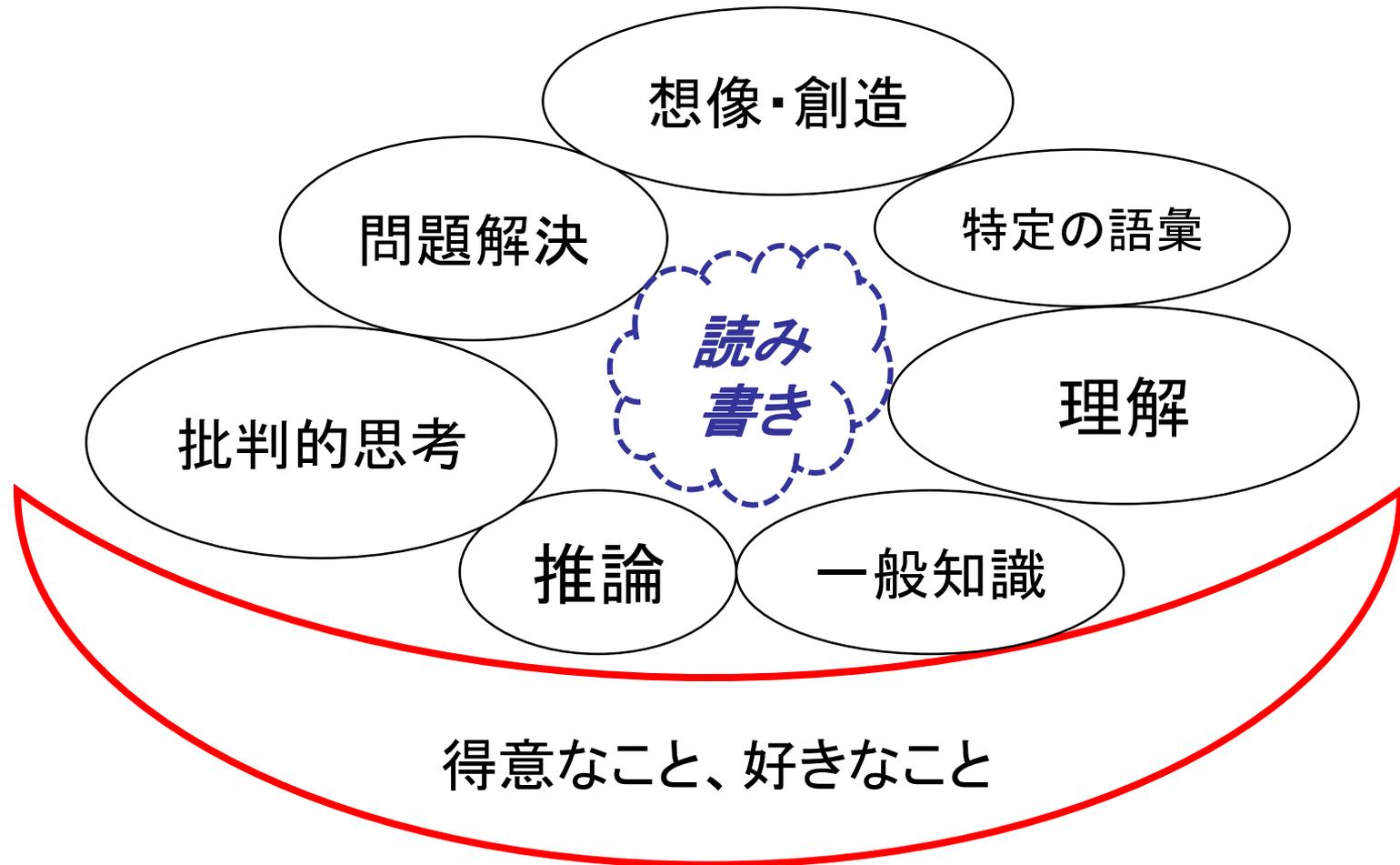
ii. 無意味語

(30語)

ちやちが

してぼう	くあらち	ちゃしう
しゃさね	しゃちん	かいぶて
ちやちが	ろんもが	ねさるん
いりいと	しゅえわ	しずとう
けるつも	さっかも	いいちだ
きるため	むどふけ	くりじい
うとしま	しばちき	おいしいん
ふんばく	たんらせ	ころしら
ぐいげろ	せっかよ	びんたん
がっしあ	きかんめ	そんでい

IV. 発達性読み書き障害がある人、 「強みの海」モデル、得意で生きる



(S.Shaywitz,2003を基に作成)

記号と音との対応

- ・DLXの子は友達や先生の名前が思い出せないことがある。
 - ・読む場合は文字記号から音を想起(デコーディング:音声化)できない。
- 音節認識を刺激するにはしりとり遊びが良い。
- 文字学習で絵付の五十音表は効果がある
- 平仮名が読めない時には、子どもに合わせて作成したフラッシュカードで練習する。
～毎回、目に見える成果を確認する。

音読訓練用ひらがなフラッシュカード(例)

(表)

きや

(裏)

きやべつ

(絵、写真)

授業の基本枠

上段	<p><u>学びのポイント</u> ・「きゃ」を読む。</p>
中段	<p><u>ポイントを使って例題を解く、展開</u> ・「きゃ」がつく言葉を集める。 ・平仮名に書いて、フラッシュカードを作り、読ませる。 ・「きゃ」のつく単語を使った文章を作る。 ・書いた文章を読ませる。</p>
下段	<p><u>確認問題</u>(1～3問) ・「きゃ」のフラッシュカードを読ませ、ほめる。</p>

新しい**単語**への対応

- ・上手に読むには**話し言葉の語彙**を増やしておく
- ・語彙を増やすには、単語を自分の**経験と結びつけ**て考えられるようにしておく。
- ・教える単語は、子どもの**経験から理解できる**単語、生活に**使える**単語、**役立つ**単語を選ぶ。
- ・単語を**カテゴリーに分けて覚えると、意味理解**につながる。
 - 場所、動物、感情などを表す単語
 - 意味が反対の単語、など
- ・カテゴリー化で**話し合う**ことは**知識を活性化**する。

語彙を増やす

- ・子どもの日常生活の中で出会った単語を覚え、一般的知識を習得する。
- ・語彙の指導は子どもが多くの例を知り、たくさん話し合う。また、単語の説明とともに絵や図で示す。
- ・子どもの語彙を増やすには、子どもの興味(スポーツ、ペット、車、宇宙、など)を機動力とする。
- ・子どもの“経験に伴って出てきた言葉に間違った答えなどない”という姿勢で、一緒に話し合う。

読解力を育てる3つのレッスン

「読み聞かせ」における3つの方法：

1. 本を開く**前**にすること
 - ・本の中身(挿絵など)を**ざっと見る**。
 - ・**興味**と結びつけ、**予備知識**を活性化させる。
2. 本を**読みながら**すること
 - ・この後**どうなる**と思う？
 - ・区切り、あらすじを**要約**させる。
3. 本を読んだ**後**ですること
 - ・本の**あらすじ**を**説明**させる。
 - ・あらすじを**図に描いて**示す
 - ・それを**どう思うか**？

流暢に読むための方法

- 繰り返し読み(repeated reading)
- フィードバック付反復音読指導法(guided repeated oral reading: GROR)
 - ・・・聞いて、修正フィードバックする
- ペア読み(paired reading)
 - ・・・2人1組になって読む
- シェア読み(shared reading)
 - ・・・文章の一部を読む
- 呼応読み(echo reading)
 - ・・・教師の手本どおり読む

読みの負担の軽減

- 事前に教科書を読んであげて耳から聞いて理解させておく。
- わからない語彙を教えておく。
- 漢字に振り仮名を振る。
- 単語や文節の区切りに斜線を入れる。
- 手作りの録音テープを用意する。
- 電子辞書、携帯電話の利用を許可する。
- 別室で読み上げ試験を行う。
- 2行程程度の穴を開けた下敷きを利用する。
- 読みと関係ない活動、絵や工作、手芸、スポーツなどでストレスを発散しておく。

DLXの子どもたちの心を守る

DLXの子どもへの**最良の支援**：

- ・子どもの読みが気になれば**正確な診断**を求める
- ・読み障害に**効果がある治療法**を探し、受けさせる
- ・学校で**ポジティブな経験**が得られるように生活や学習内容・方法の調整をする
- ・世間知らずにならないように**社会を体験**させる
- ・家庭では子どもと共に**本を読み、読み聞かせ**をする

その子に

「ひとりの**人間として価値ある存在**である」

と常に言い聞かせる！！！！

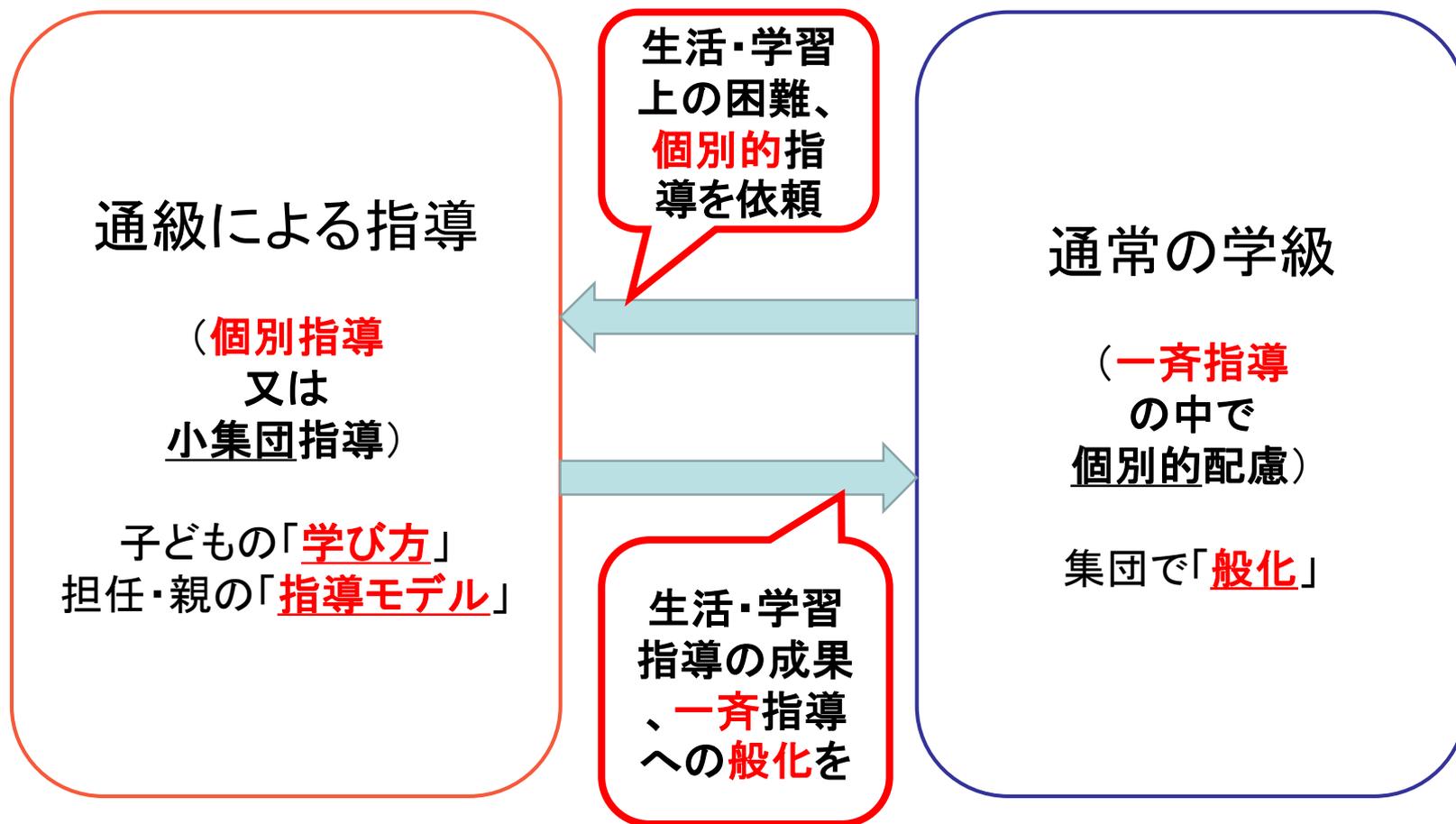
IV. ② 親が流暢な音読を育てる

子どもは2年生の半ば頃から流暢に読める。

そのために親ができること: 反復音読を最優先に!

- ・音読を聞いてやる。できれば毎晩。1回の長さより継続が重要
- ・一緒に読み練習; 1晩10~15分(少なくとも5分)。
親が、親子一緒に、子どもが一人で。
1段落、1頁、1章毎など。
- ・はじめに少し読んで、同じ箇所を子どもに読ませるも良い。一緒に音読するのも良い
- ・同じ本を2冊用意して、読んでいる所を指差しする。

通常の学級と通級による指導の連携



通級担当者の基本姿勢

*「今、自分は何を教えようとしているか」常に自らに問いかける。

～目的に合わせて指導を調整する。

* 学校教育の「不易」を実践する。

～児童生徒のよさや可能性を育て、自己肯定感を育てる。

少人数や個別で子どもに合った学び方のモデルを創り、通常の学級で般化できる指導モデルを具体的に通常学級担任に伝える。

各教科の内容を補充するための特別の指導

- ・通常の学級における指導内容との連続性

1 児童生徒の興味関心と内容の難易度により、在籍学級で行っている学習内容を1~2に限定し、指導する。

2 児童生徒の発達、習熟段階、興味・関心、生活や学習環境などの実態に合わせ、達成可能な学習内容を精選する。

- ・優先すべき指導項目や指導内容の設定の工夫

3 児童生徒の得意分野を伸ばす内容と困難を改善・克服する内容を指導する。

各教科の内容を補充するための特別の指導2

・学習項目、学習内容、学習活動の設定

1つの授業時間の中に、いくつかの学習のまとまりを作る。

それぞれの学習のまとまり毎に、(前)前回の復習、(中)新しい課題の学習、(後)その習得の確認、この前中後をセットにする。

復習と確認は確認テスト等で記録に残す。

授業の基本枠

上段	学びのポイント
中段	ポイントを使って例題を解く。～展開
下段	確認問題(1～3問)

特別な指導プログラム(通級)～45分の授業(案)

1. **前回**の読みの復習(3分)
2. 本日の学習計画を子どもと相談して決める。(2分)
3. **読み、書き**の練習(10分)  休憩:2分
4. **得意な教科**の発展(8分)

算数、理科等の授業の復習、発展

テストで確認(3問)～最後1分?  休憩:2分

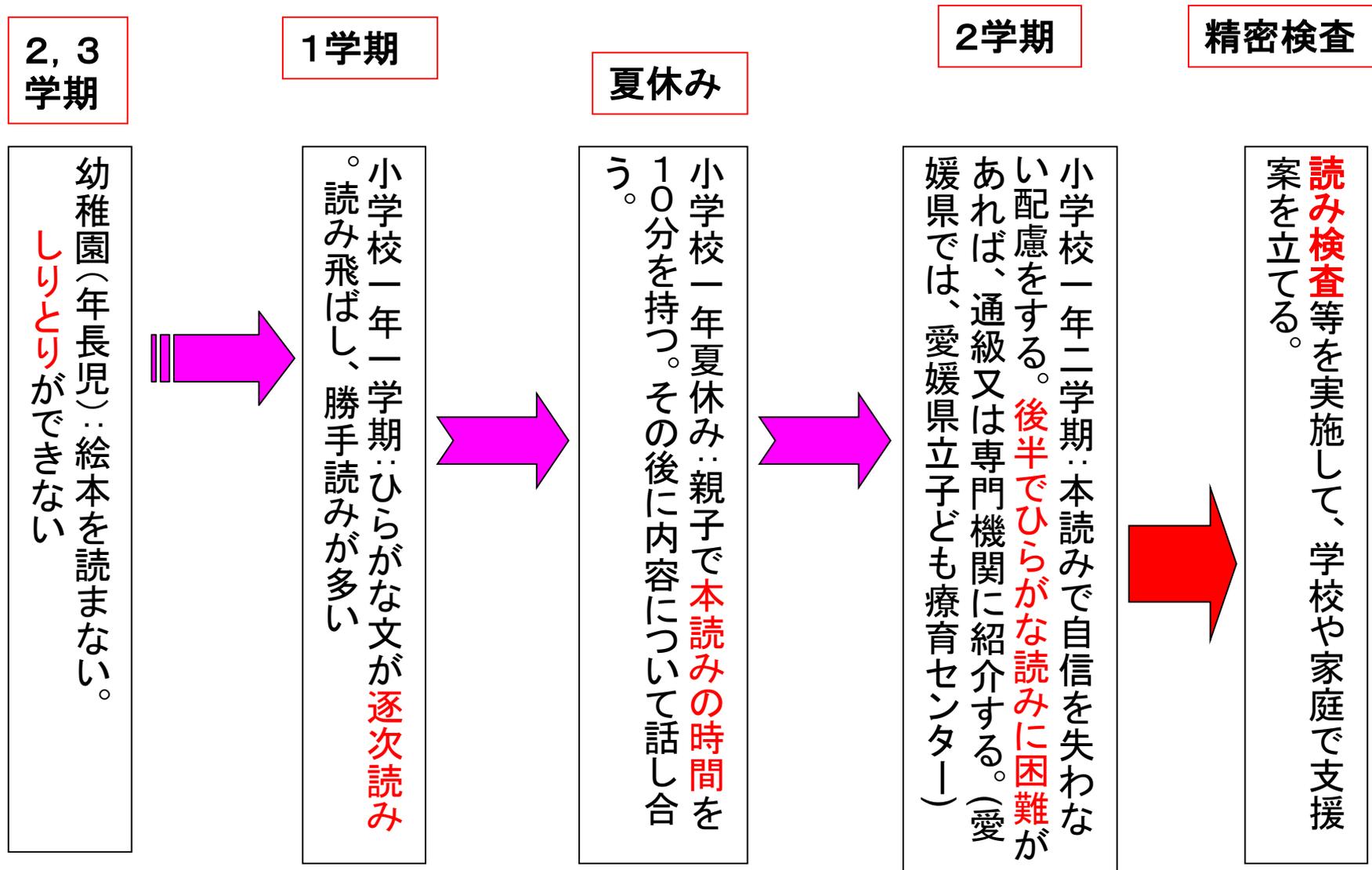
5. **国語等**の読み書きをする(10分)

国語等(お話の本)の授業の復習、発展

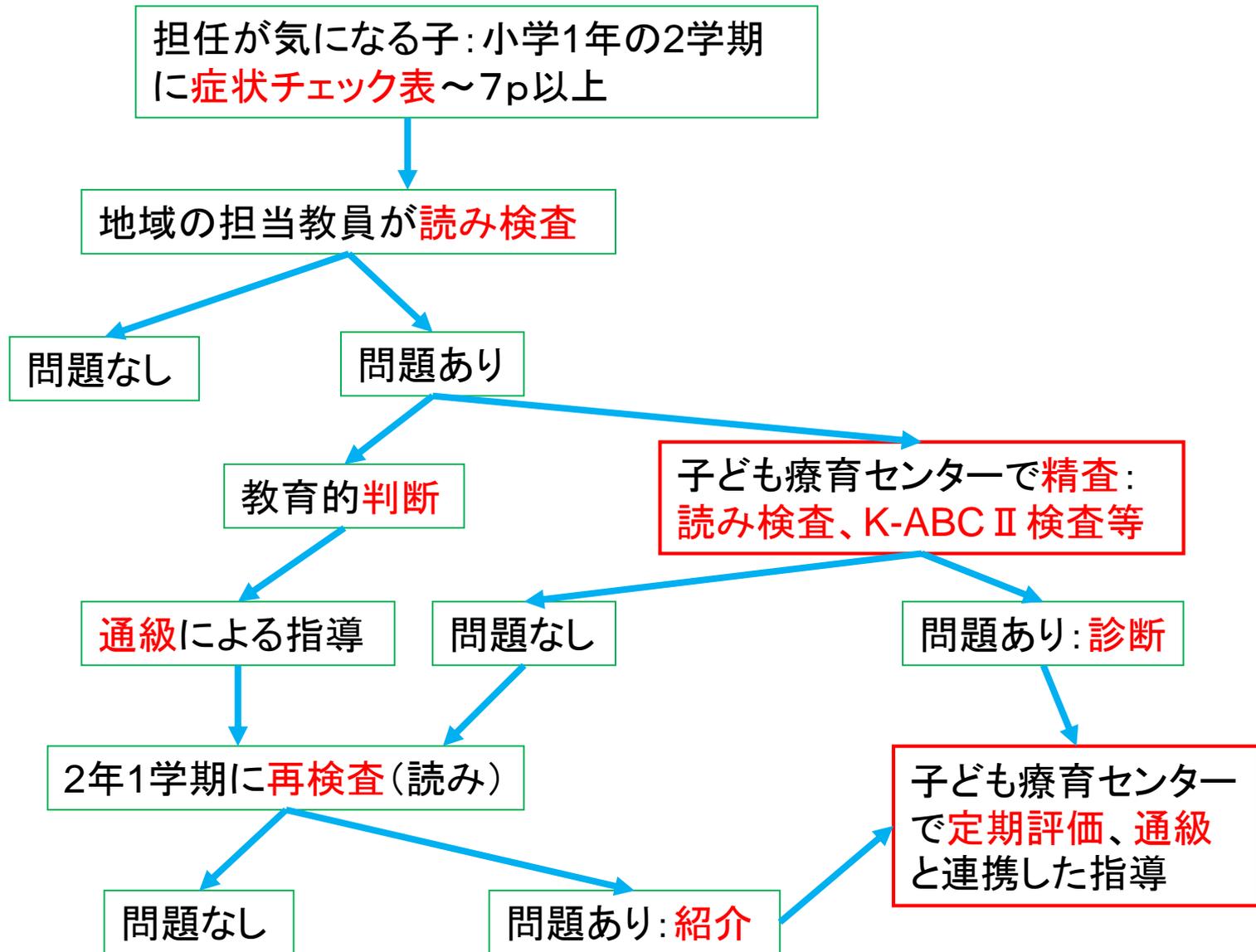
テストで確認(3問)～最後1分?  休憩:2分

6. 本日の読み、書きの復習、確認**テスト**(4分)
7. 連絡帳(担任、保護者に連絡) (2分)

IV. ③ 発達性読み書き障害の早期発見？



発達性読み書き障害の診断と支援



読み書きに困難がある子どもの支援 1

平仮名の読みが困難(小学1年頃):

- ・読み検査等で診断がつけば、**音読訓練ソフト**(又は、自作の**フラッシュカード**)を約3ヶ月行う。定期的に読み検査をする。

- ・その後、継続して家庭・学校で読み書きに配慮した指導を行う。得意なことを毎日誉める。

- ・学習上の困難があれば、

★1 通級による指導を「学習障害」の枠組みで受ける。

★2 学習・支援の成果を子ども療育センター等で読み検査・学習習熟度テスト等定期検査を、学期・学年毎に行って評価する。得意なことを毎回誉める。

読み書きに困難がある子どもの支援 2

長い文章の読み書きの困難(学年が上がって):

- ・学習の困難があれば、**読み検査・学習習熟度テスト**等の検査を行う。得意なことを毎回確認し、誉める。

明らかな困難があれば、一般的な通常の学級での配慮、家庭での学習に加え、**①通級による指導**を受ける。また**②子ども療育センター**とも連携して支援する。

- ・得意なことを毎日誉める。困った時には**人に聞く**態度を育てる。
- ・学習には図や絵の多い**参考図書**を使う。

デイジー教科書などの**読み上げ教科書**、拡大教科書、家庭や学校で自作の教科書等の**読み上げ録音**(ICレコーダー)等を使う。

- ・**学習内容**を子どもの状態に合わせて**精選**する。

人に教えること？

「やって**見せ**、

言って聞かせて、

やらせてみ、

褒めること。」

例題見本
1頁に！

例題の
確認テスト

また、自分らしくできる？ ~~~ 個性的とは？

守



破



離

基本のパターン化

V. まとめ 1

I. 学習障がいとは？

→ 文字の**読み**の困難が中心

II. 子どもと親・家族の困りごと

1. 子ども・親・家族・周囲の人の困りごと

→ 困りごとは**年齢**に伴って変わる

2. 子ども療育センターを受診した子どもの困りごと

→ 困難の程度が**高度**

III. 学習障がいの診断

→ 学校で**支援した後**で、医学的診断をする

まとめ 2

IV. 学習の進め方

1. 子ども支援の方法は？

→ 工夫して、子どもに**自信**をつける

2. 親・家族・教師にできる支援は？

→ 根気強く、**成功経験**を重ねる

3. 愛媛県での支援案？

→ 小学**1, 2年**で相談につなぐ

V. まとめ

文献

- 1) Overcoming Dyslexia Sally Shaywitz, M.D. 著、2003
「読み書き障害のすべて」—頭はいいのに、本が読めない—
訳：藤田あきよ、監修：加藤醇子、PHP研究所、2006
- 2) 特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン
—わかりやすい診断手順と支援の実際—
稲垣真澄編著、診断と治療社、2010
- 3) ディスレクシア
読み書きのLD - 親と専門家のためのガイド
MJ Snowling 著、
監訳：加藤醇子・宇野彰、東京書籍、2008
- 4) ディスレクシアなんか怖くない！ RD Davis 著、1994
訳：品川裕香、エクスナレッジ、2004
- 5) “遊び活用型”読み書き支援プログラム
小池敏英・雲井未歆編著、図書文化社、2013

就学前(4, 5歳代)のDLX児の困難

- **友達の名前**を覚えられない、思い出せない。
 - **童謡の歌詞**を覚えるのに苦勞する、**歌うのを嫌う**。
- **自分の名前**に使われる**文字**を認識できない。
 - **絵本**を読まない。
- **しりとり遊び**ができない。
- **言葉の発達**が遅い。
- **発音**がうまくできない。

小学1, 2年のDLX児の困難

話す:

- 似たような語と間違えて言う。
- 名前が出てこない。

読む:

- 一文字ずつのたどり読み(逐字読み)が続き、内容が理解できない。
- 飛ばし読みや勝手読みが多い。
- 拗音・促音が読めない。
- 文字と音を関連づけることができない。

書く:

- ・読むだけでなく書くことは更に大変で、連絡帳を書くことができない。

小学3-6年生のDLX児の困難

話す:

- 長い複雑な単語の発音を間違える。
- 質問されて答えるのに、時間がかかる。

読む:

- ・単語によって読み方が変わる漢字が読めない。青空・空気
- 読み飛ばし、読み間違いが多い。
- ・見慣れない言葉や文章の区切りが分かりにくい。
- 簡単な文は読めるが、学年レベルの文章は困難。
- 読むスキルの習得が非常に遅い、疲労を感じる。
- 正確さは改善するが、流暢さの困難が続く。

書く:

- ・平仮名と片仮名の使い分け、平仮名主体の文章になる。

中学・高校・成人のDLXの困難

話す:

- 人名や地名の発音を間違える、単語の一部が抜ける。
- 質問につまったときに流暢にしゃべれない。

読む:

- すらすら読めない、読むと極端に疲労する。
- 独特の単語の発音に苦勞し、「あれください」となる。
 - ・図やグラフや写真の入っている本、文字数が少ない本を好む。
 - ・読めない単語があってもストーリーを追え、読み困難の自覚はないこともある。
- 細部を正確に読めないので、学習意欲を持たず、進学も困難となる。

書く:

- 英語のスペルと読みは困難である。ヒアリングはできることもある。
 - ・機械的な事務作業の効率が悪い。

臨床症状チェック表

性： 男 ・ 女 年齢 歳 学年 年

確認日： 年 月 日 病名： AD/HD ・ PDD ・

記録者： 医師 ・ その他 情報提供者： 保護者 ・ 教師 ・ その他

学力(国語)

- 若しく遅れている (2学年以上、あるいはまったく授業がわからない)
- 遅れている (約1学年～2学年、あるいは授業についていけない)
- やや遅れている (当該学年の平均以下)
- 遅れていない (当該学年の平均くらい)

読字

書字

① 心理的負担

- 字を読むことを嫌がる
- 長い文章を読むと疲れる
-

① 心理的負担

- 字を書くことを嫌がる
- 文章を書くことを嫌がる
-

② 読むスピード

- 文章の音読に時間がかかる
- 早く読めるが、理解していない

② 書くスピード

- 字を書くのに時間がかかる
- 早く書けるが、雑である

③ 読む様子

- 逐次読みをする (文字を一つ一つ拾って読むこと) あるいは、逐次読みが混じった単語または文章の途中で区切ってしまうことが多い (chinkingが苦手)
- 文末を正確に読めない、指で押さえながら読むと、少し読みやすくなる
- 見慣れた漢字は読めても、抽象的な単語の漢字を読めない
-

③ 書く様子

- 書き順をよく間違える、書き順を気にしない
- 漢字を使ったがらず、仮名で書くことが多い
- 句読点を書かない
- ㄋス目や行に納められない
- 筆圧が強すぎる (弱すぎる)

④ 仮名の誤り

- 促音 (「がっこう」の「っ」) や撥音 (「しんぶん」の「ん」) や拗音など特殊音節の誤りが多い
- 「は」を「わ」と読めずに「は」と読む
- 「め」と「ぬ」、「わ」と「ね」のように、形想的に似ている仮名文字の誤りが多い

④ 仮名の誤り

- 促音 (「がっこう」の「っ」) や撥音 (「しんぶん」の「ん」) や拗音など特殊音節の誤りが多い
- 「わ」と「は」、「お」と「を」のように、耳で聞くと同じ音 (オソ) の変形に誤りが多い
- 「め」と「ぬ」、「わ」と「ね」のように、形想的に似ている仮名文字の誤りが多い

⑤ 漢字の誤り

- 読み方が複数ある漢字を限りやすい
- 意味的な錯読がある (「教師」を「せんせい (先生)」と読む)
- 形想的に類似した漢字の読み誤りが多い (「雷」と「雷」のように)

⑤ 漢字の誤り

- 面数の多い漢字の誤りが多い
- 意味的な錯読がある (「草」を「花」と書く)
- 形想的に類似した漢字の書き誤りが多い (「雷」と「雷」のように)